



## 部会だより

### コロイドおよび界面化学部会

## コロイドおよび界面化学討論会での 国際シンポジウム

### はじめに

コロイドおよび界面化学部会では、過去の本欄でも紹介がありましたように、これまでの日豪シンポジウムを拡大させた Western Pacific Colloids Meeting (WPC) や、日台のコロイド学会が昨年に開催されるなど、国際交流が盛んになってきています。今年度北海道教育大学旭川校で開催された第 67 回コロイドおよび界面化学討論会（9 月 22～24 日）においては、この流れをさらに継続・拡大することを目指して国際シンポジウムを開催しました。これまでの討論会でも、日本人や日本在住の外国人研究者の英語発表を中心とした「国際セッション」を開催してきましたが、今回は趣を変え、オーストラリア・台湾を中心に、国を限定せずに海外から参加者を広く集めた「国際シンポジウム」を企画したわけです。部会国際交流委員会の出口茂委員長（海洋機構）と米澤徹委員（北大）がオーガナイザーとなり、筆者を事務局として準備を行いました。

### シンポジウムの様子

しかし、通常の討論会では国際学会のように海外から参加者を集めるということはありませんので、専用 HP を独自に作成したり、国際学会並みに参加費のクレジットカード払いに対応したり、海外の学会に参加される先生方にフライヤーを配っていただくなど、普段と異なる様々な工夫が必要でした。また、上記の WPC と日台コロイドで基調講演を招待

していただいた「返礼」に、台湾から 3 名（Tai-Chou Lee, Ling Chao, De-Hao Tsai 先生）、オーストラリアから 2 名（Chiara Neto, Sally Gras 先生）の気鋭の研究者を招待し、日本の近藤行成先生（東京理科大）とともに基調講演を務めていただきました。

このように手探りの中で可能な限りの準備はしましたが、海外からどのくらい人が集まるかは、正直大変に不安でした。しかし幸いにも、オーストラリア・台湾を中心としたアジアの国々、さらにドイツなど欧州を含めた 10 カ国から、予想をはるかに上回る申込みがあり、日本からも多数の参加がありました。最終的に口頭 56 件、ポスター 35 件もの講演申込みがあり、当初 1 会場の予定を 2 会場に分けなければならないほどでした。これはオーガナイザーの熱意や上記のような集客の工夫に加え、何より北海道、旭川という土地の魅力のなせる業だったのではないのでしょうか。3 日間を通して素晴らしい研究発表と熱のこもった討論が展開され、非常に活気のあるシンポジウムになりました。



学会が終わった 3 日目夜には国際シンポジウムの懇親会が開かれ、ジンギスカ

ンとビールに舌鼓を打ちながら参加者同士の交流が和やかに行われました。また、若手口頭講演賞・ポスター賞の発表と授与が行われ、大いに盛り上がりました。受賞者は以下のとおりです（敬称略）。

講演賞：Mai Thanh Nguyen（Hokkaido Univ.）、Maxime Paven（Max Planck Inst.）  
ポスター賞：Yi-Chen Chen（National Tsing Hua Univ.）、Ryoichi Kitaura（JAIST）、Amane Sonotani（Tokyo Metropolitan Univ.）

さらにその翌日には旭岳へのエクスカーションも行いました。幸いにも晴天に恵まれ、また紅葉の見頃にちょうど重なったため、非常に美しいまさに絶景を楽しむことができました。参加者からも多くの満足の声が聞かれ、お陰様で成功と言えるシンポジウムとなったかと思います。



### おわりに

最後に、このシンポジウムに参加された皆様、運営にご協力いただいた皆様、またご支援賜りましたコスメトロジー研究振興財団様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。このシンポジウムを機に、さらに国際交流が広がっていくことを期待します。

（国際交流委員会 石田尚之（岡山大学））

© 2017 The Chemical Society of Japan